

(一社)日本臨床一般検査学会「伊藤機一賞」を受賞して

弘前大学医学部附属病院 石山雅大

令和4年8月27日(土)、愛知県一宮市で開催されました一般社団法人日本臨床一般検査学会にて、伊藤機一賞を受賞しましたのでご報告します。伊藤機一賞はこれまで私を含め10名の受賞者になりますが、青森県からは坂牛省二氏(第四回受賞)に続き、二人目の授与となります。伊藤機一先生は順天堂大学医学部を卒業後、米国スクリップス記念病院教授や東海大学助教授、神奈川県立衛生短期大学学長などを歴任され、臨床一般検査分野では日本のみならず海外でもご活躍されました。一般検査に関する要職、著書の出版なども数多く、青臨技でも何度かご講演され、青森県にも大変ゆかりの深い先生でいらっしゃいました。

今回の私の受賞理由は、一般検査分野として青臨技一般検査研究班長、日臨技では形態検査部門員(一般検査)・精度管理調査協力委員・髄液検査ワーキンググループ委員・認定一般検査ワーキンググループ試験委員・一般検査技術教本執筆委員などのほか、一般検査以外の日本検査血液学会評議員、日本医療検査科学会評議員として髄液・体腔液分野への協力、学会発表や全国で150回ほどの講演実績、公益活動として青臨技副会長の業績も評価され受賞となったと稲垣勇夫記念会会長よりご報告いただきました。

私自身は小さな病院での生理検査と細菌検査の仕事からのスタートで、その後もほとんどは血液検査と細胞検査を長く勤めており、意外と業務歴として短かった一般検査がなぜか技師会や各学会では私の主軸の業務となった経緯があります。一般検査は三か所目の就職先である弘前市立病院で担当になりましたが、ルーティン業務後に弘前大学医学部附属病院検査部の中田伸一先生のもとに6か月ほど通い基礎から勉強させていただき、同時に健生病院の蟻塚しづ子先生には円柱類、弘前市医師会の長沼孝雄先生のところには細胞の基礎を学びに何度も伺いました。そして何より一人前の技師として私を育てていただいたのは平内中央病院の坂牛省二先生でした。坂牛先生には、とにかく金魚の糞のようにくっついて全国の学会、研修会を回って一緒に勉強させていただき本当にお世話になりました。また、いずれの先生とも酒宴も多く、良く語り合ったことも大きな勉強と考えています(笑)。

現在の私は検査業務から離れ、また病院での勤務も残りわずかとなりました。しかしながら日臨技をはじめ、各学会から一般検査に関する業務依頼は引き続きたくさん与えられておりますので、いただいた賞に恥じぬように、引き続き後進のためになるような仕事に邁進してまいりたいと思います。最後になりますが、青臨技関係各位に感謝とともに受賞の報告とさせていただきます。本当にありがとうございました。